



北海道積雪分布図（平均最深）

防災研究室 増田久夫

冬の北海道では、大部分の地域が数ヵ月の間積雪に蔽われ、積雪深の多少は交通、生活物資の流通をはじめ住民の日常生活に少なからず影響をおよぼしている。一方、産業面ではとくに農林業などは、土地関連産業であるという立場上、他産業より積雪による影響をうける率が高いといえる。

具体的に北海道の林業と積雪のかかわりあいについてみると、最近バイオマス問題等で話題となっているササ類は、その種類、分布が積雪深とかなり密接な関係があるとされている。また、トドマツ幼齢造林地に発生する枝枯病が多雪地帯に集中していること、道東地方にみられる造林地の寒風害は寡雪地帯の象徴的気象害とされていることなどから多雪、寡雪の両現象が、ともに北海道林業に大きな影響を与えているということがいえる。

以上のほかに多雪地では雪圧、積雪の匍行による幼齢木の物理的損障、急傾斜地の雪崩による破壊行為など、積雪がひきおこす被害は生理的なものから物理的、機械的な面にまで広くおよんでいるのが実態である。

このようなことから、最近、個々の被害、災害の原因究明、広域的問題の対策の検討にあたり、雪の情報、とくに積雪深について関心がよせられているが、これまで、森林施業などに直接利用できる実用的規模の積雪分布図がなかった。

そこで、今回、実用的な利用という点に重きをおいて、最近20年間の北海道内気象官署ほかの積雪資料を用いて、縮尺60万分の1の北海道積雪分布図を作製した次第である。

新技術情報 No.6

昭和58年1月31日 発行

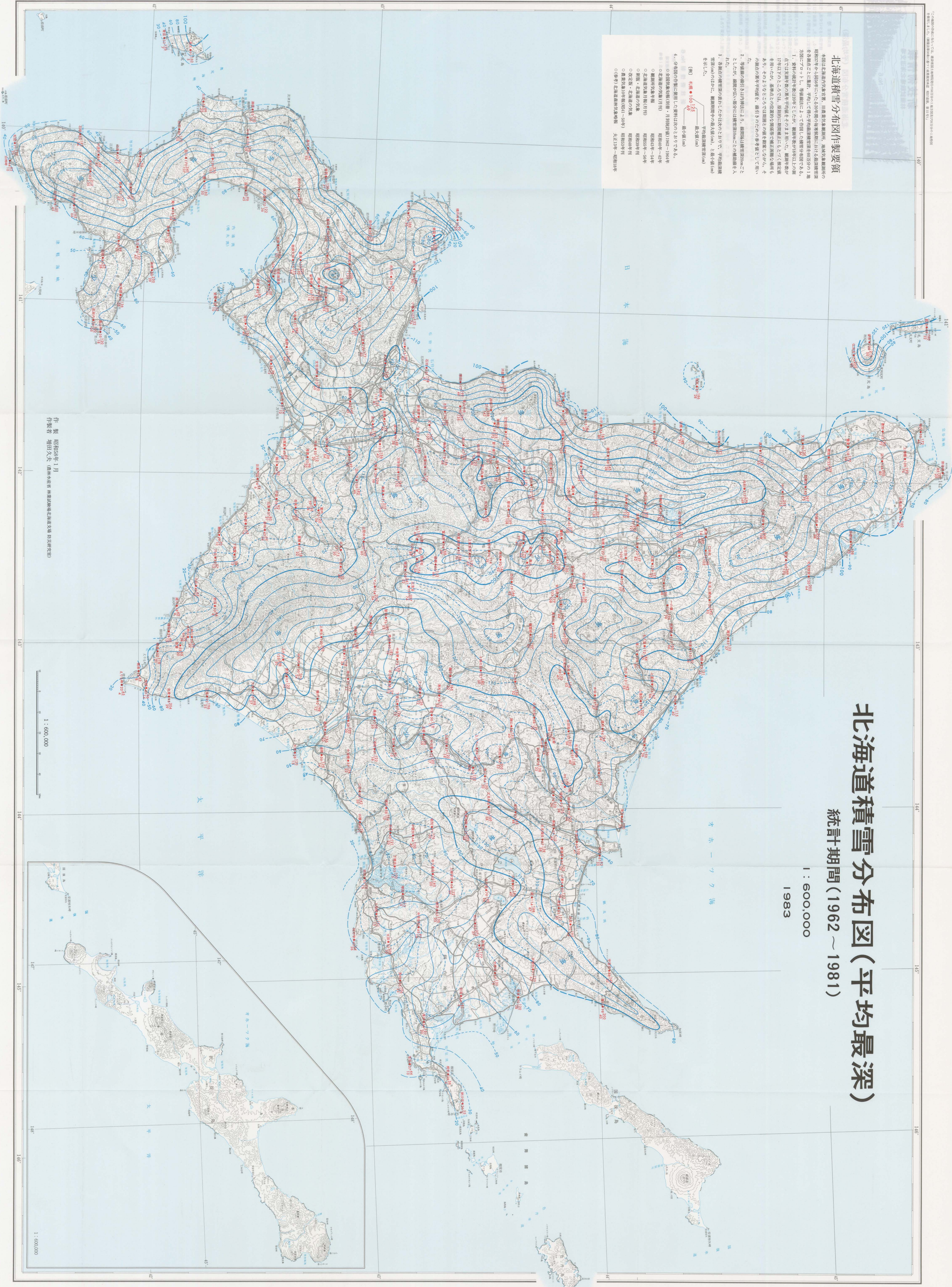
林業試験場北海道支場

札幌市豊平区羊ヶ丘1番地

北海道積雪分布圖作製要領

[illegible]

- [illegible]



北海道積雪分布図(平均最深)
統計期間(1962～1981)

1 : 600,000
1983